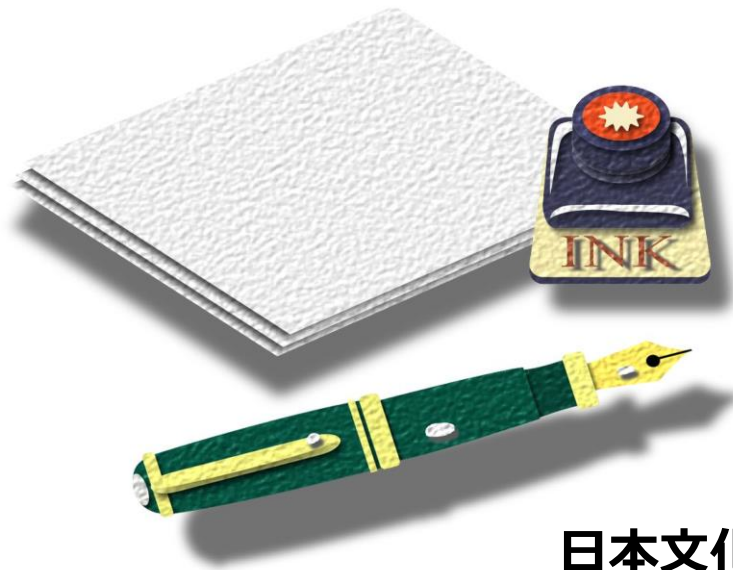


日本文化学科体験講座

「文学研究」とは何か？



日本文化学科教員 村上陽子

かつての文学研究は.....

- 「作者」を絶対視。
- 研究や批評は「作者」の実生活上のあらゆる細部を探り出すことに必死になり、作品の中の言葉の意味は「作者」の実生活と関連づけて考えられていた。
- 「読者」は単に「作者」の思想を理解するだけの受け身の存在になってしまった。

現在の文学研究は.....

- 「作者」という存在から自由になった。
- 「読者」は「作者」の意図にかかわらず、同時代の文脈や言説の影響などを考えて新しい読みを創出していく存在に。

作者

- 「作者」は絶対ではない。
- 「作者の思い」は理解しなくてもOK!

文学作品 (テキスト)

- 自由で多様な解釈が可能なもの。

読者

- 「文学作品」を自由に読み解き、解釈を広げていく存在。

◆作者の意図を「作品」から探る読みではなく、作者の言葉の集積という縦糸に、読者がさまざまな横糸を織り込んで多様な読みを展開していく試み

➤ テキスト論



文学研究の卒論テーマの一部

- 新海誠から見る「離れ離れ」のスパイス
- 関係性から見る 住野よる「君の臍臓をたべたい」論
- 様々な人物が織りなす関係性—夏目漱石「こころ」論
- 少年たちの孤独と幸い—宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論



まとめ 文学研究とは？

- ◆ 単に小説を読んで内容を理解すること、作者についてくわしく調べることが文学研究ではない。
- ◆ 歴史的背景や文学理論、メディアのあり方、哲学、精神分析などさまざまな知識を踏まえて自分だけの「テクスト」の読みを追求していくもの。